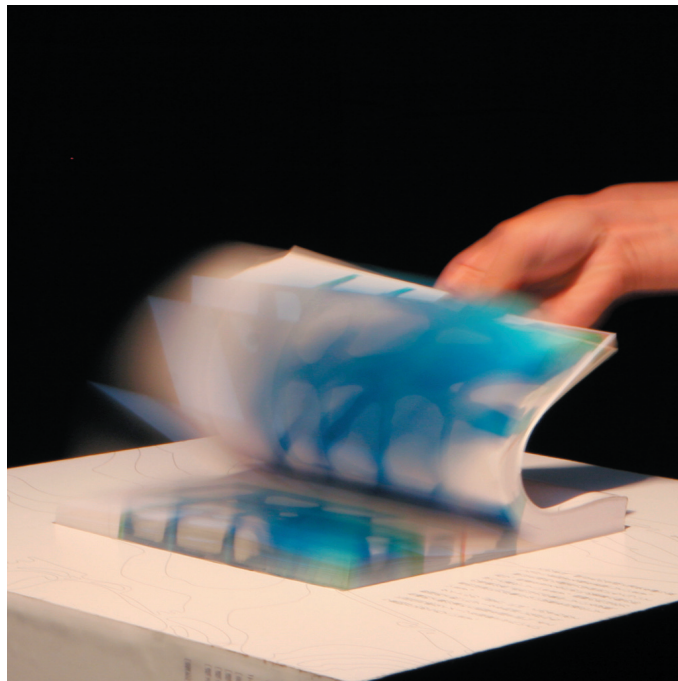


タイトル	居孔の絵本
提供	風袋 宏幸 <sup>1)</sup>

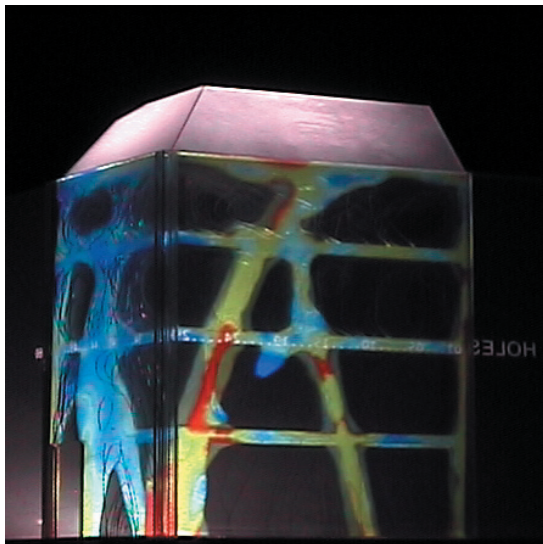
この本は 240 枚の壁の絵からできています。それらはビルの壁に実際に適用された拡張 ESO 法によるシミュレーション画像を加工して制作されました。曲線の形は応力の等値分布、赤色は力が集中している状態、青色は逆に力が働かない状態を可視化しています。ページをめくると、壁の絵は荷重を支えるために必要最小限の形状へと進化していきます。拡張 ESO 法という数理的なデータをもとにしてはいますが、紙にインクジェットで印刷された絵は、幾分濡れた肌理を持ち、有機的な印象が強調されています。また、ページをふわっと上手にめくると、孔の生成と消失を繰り返しながら、しだいに変容していく過程そのものが立体的なイメージとして現れます。



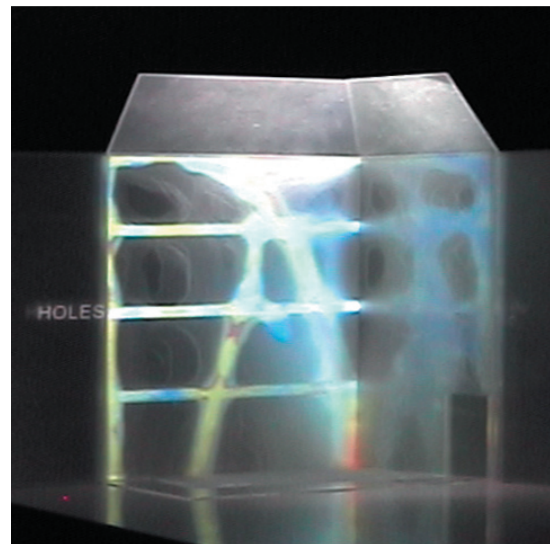
1) 武蔵野大学環境学科，助教授

タイトル	居孔の映像
提供	風袋 宏幸 <sup>1)</sup>

このビデオインスタレーションは、孔の生成と消失を繰り返しながら変容する壁を表現しています。映像と10枚の亚克力板が積層してできるスクリーンを重ね合わせることによって、壁の外側にはクリアでハードなイメージを、内側には曖昧でソフトなイメージをつくり出しています。個々の亚克力板は、拡張 ESO 法によるシミュレーション映像を途中でストップした状態、すなわち進化過程における各世代に対応しており、レーザーカッターによって孔が開けられました。曲線の形は応力の等値分布、赤色は力が集中している状態、青色は逆に力が働かない状態を可視化しています。



最終形状を外部からみる



最終形状を内部からみる

1) 武蔵野大学環境学科，助教授